

佐藤 彰

産地製品及び企業の多様化に資することを目的として、新たな異分野製品の開発をデザイン面から行った。本年度は、インテリア関連の市場環境や動向を調査・検討し、開発品目の選定、デザイン開発と試作作業を行った。

## 1. はじめに

市場環境や生活様式の変化などにより、国内製陶磁器の市場が縮小傾向にあるなか、有田焼も売上減少が続いている。食器市場は成熟分野であり、また、人口が減少に転じるなど、今後、更なる市場の縮小が懸念される。

このような状況に対し、産地製品の市場規模の維持・拡大を図るためには、製品及び企業の多様化が重要な方向性の一つと考えられる。

そこで、本研究テーマでは、食器以外の新たな分野の製品開発をデザイン面から試行するものである。

研究開発初年度である平成 18 年度は、インテリア関連の市場環境や動向の把握を行い、開発品目を選定し、デザイン開発及び磁器部材の試作等を行った。

## 2. デザイン開発

### 2.1 目的

デザイン開発の一方向性及び手法を検討・試行することにより、同様の製品分野に偏在している産地製品及び企業の多様化に資することを目的とする。

### 2.2 考え方

市場調査会社の資料等から、以下の要素に注目することとした。

- ・ 新規住宅着工戸数やリフォーム市場の規模は、近年高い水準で推移しており、住関連の需要が推察されること。
- ・ 小売業態は大きく変化しており、食器商品も家具やインテリア関連製品と同様、生活用品の一部として横断的に商品構成を行う新たな小売

形態が拡大するなど、以前と比較して陶磁器業界と全く別のチャネルではなくなってきていること。

- ・ これらは、概ね価格帯に関わらない傾向であること。

また、産地の現況から、以下の条件を考慮するものとした。

- ・ 基本的には現状の食器製造工程にそのまま適応する品目であること。
- ・ 産地製品は高価格帯となることから、生活必需品ではない新たな価値観や付加価値を訴求すること。

これらのことから検討を行い、本デザイン開発における新たな製品分野の対象をインテリア関連製品とした。具体的にはリビング（居室）空間を対象とし、トレイを開発品目として選定した。

尚、これらの分野或いは品目に対する需要が食器市場と比較になることは考えられず、あくまで食器市場に対する補完的役割、異分野開拓による新たな展開を図るための一構成品目、との位置づけを明確に認識する必要がある。

### 2.3 デザイン開発

本年度デザイン開発作業を行ったが、製品プロトタイプ製の作製などの具体的な展開は次年度以降となるため、デザイン開発に関する詳細はその際に報告を行う。

### 2.4 試作

本年度はデザインした形状等について、焼成変形による修正などの基本的な試作作業を行った。

形状デザインは、デザイン用3次元モデリングソフト Rhinoceros を用いてデザイン及びモデリングを行い、ABS樹脂製原型として出力した。



図1 試作品



図2 試作品



図3 試作品

### 3. まとめ

製品開発における調査と考察、デザイン開発及び試作を行った。次年度以降、プロトタイプを作製するなど具体的に提案を行う。

#### 参考資料

- 1) 矢野経済研究所, 家具・インテリア小売市場の展望と戦略, (2005)